




認知症の症状に応じ、活用できるサービス

	健康 → あれ？認知症かな	→ そろそろ誰かの見守りが必要 →	日常生活に手助けが必要	→ 常に手助けが必要
<p>本人の様子</p>  <p>家族の気持ちと対応</p>  <p>本人やまわりの人がやっておきたいこと・決めておきたいこと</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●物忘れ ●同じことをくりかえし聞く ●片付けが苦手になる ●物がなくなる ●外出が面倒になる <p>なんとなくおかしいと感じて不安になる</p> <p>認知症の家族のかかわり方や環境調整により、症状は大きく変化し、気持ちの変化は人それぞれです</p> <ul style="list-style-type: none"> ■友人や地域とのつながりを大切にしましょう ■いままでやってきたことを続けましょう <ul style="list-style-type: none"> ・地域の活動 ・サークル活動 ・ボランティア 等 ■将来に備えて、任意後見制度を検討してみましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ●小銭で払うのが苦手になる ●探し物をする時間が増える ●食事の支度が一人では難しい ●火の消し忘れ ●金銭の管理や支払いが難しくなる ●薬を間違えて飲む ●たびたび道に迷う ●季節に合った服が選べない ●家電の操作が難しくなる ●生活リズムが乱れる <p>悩みを打ち明けられないで一人で悩んでしまいがち ⇒抱え込まずに相談をすることが大事 家族の病気への理解が、今後の症状の出方に大きく影響する</p> <ul style="list-style-type: none"> ■まわりの人に相談してみましょう ■一日の計画を立てて行動してみましょう ■地域包括支援センターに相談しましょう ■かかりつけ医に相談しましょう ■元気なうちから生前整理に取り組みましょう ■外出の機会をもちましょう ■本人の話をじっくり聞きましょう 	<ul style="list-style-type: none"> ●トイレの場所がわからない ●道に迷って帰ってこられない ●日にちや季節がわからなくなる ●洋服の着かたがわからない <p>本人の失敗が増え、介護疲れを感じる、休みたくなる ⇒介護サービス等を利用し、自分のリラックスできる時間も大事にする</p> <ul style="list-style-type: none"> ■一人で行うことが難しいことはまわりの人に手伝ってもらいましょう ■なんでも相談できる人を見つけておきましょう ■今まで通り、外出したり人に会う機会を持ちましょう ■ご家族は、成年後見制度等の利用について検討してみましょう 	<ul style="list-style-type: none"> ●自分で食事ができなくなる ●言葉によるコミュニケーションが難しい ●歩行が困難 ●起き上がるのに介助が必要 <p>最期の過ごし方や看取りが心配 ⇒元気なうちに本人の意向を確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> ■本人の「得意」を活かし、その人らしい生活をいかにして送っていくのかを考えていきましょう ■介護サービスなどを利用してお互いにリラックスできる時間を持ちましょう ■施設での生活を希望する場合は早めにいくつかの施設を見学しておきましょう
介護保険	申請の相談	介護認定の取得	介護サービスの利用・家族の介護疲労の軽減	
介護予防に努めたい	シルバー人材の仕事 ボランティア活動 健康診断 けんこう運動教室 出張介護予防教室 認知症予防教室 老人クラブの活動 いきいきサロン サークル活動 通所型サービスA 訪問型サービスA			
日常生活のうえで支えが欲しい 身の回りのことを支援して欲しい 介護サービスを利用したい	【在宅サービス】訪問介護（ホームヘルプ） 通所介護（デイサービス） 短期入所介護・療養介護（ショートステイ） 【在宅サービス（医療）】訪問看護 訪問リハビリテーション 通所リハビリテーション 居宅療養管理指導 【住宅型】軽費老人ホーム 有料老人ホーム 【介護付】有料老人ホーム サービス付き高齢者住宅 【地域密着型サービス】 認知症対応型共同生活介護（グループホーム） 【施設サービス】 介護老人保健施設 特別養護老人ホーム			
住まいを整えたい	住宅改修等 福祉用具（貸与・購入）			
権利を守りたい 資産管理を頼みたい	社会福祉協議会：日常生活自立支援事業		成年後見制度	
見守り・安否確認をして欲しい	民生委員児童委員、自治会、認知症サポーター等の見守り		配食サービス 緊急通報装置（独居・高齢者世帯のみ） 救急医療情報キット	
医療	かかりつけ医 ・ 認知症疾患医療センター			

相談窓口

● 行政機関・地域包括支援センター

保健・医療・福祉に関する総合的な相談のほか、各種介護保険サービス・高齢者福祉サービスに関する相談を受け付けています。また、直営の地域包括支援センターに配置されている3職種（保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員）が認知症介護のアドバイスや医療機関の受診や地域のサポートを受ける方法など、できる限り自宅で生活ができるためのお手伝いをいたします。

担当：一宮町福祉健康課 介護保険係 ・ 一宮町地域包括支援センター
住所：一宮町一宮2457（窓口：一宮町保健センター 1階）
電話：0475-42-1431（介護保険係）
0475-40-1055（地域包括支援センター）

● 認知症疾患医療センター

かかりつけ医や地域包括支援センターなどと連携して、認知症に関する鑑別診断や専門医療相談などを行います

医療機関名：浅井病院
住所：東金市家徳38-1
電話：0475-58-1411

● ちば認知症相談コールセンター

認知症について、日頃から悩んでいること、疑問に思っていることをお気軽にご相談ください。認知症介護の経験者が電話相談を受けています。

電話：043-238-7731
電話相談日：月・火・木・金
面接相談日：金（予約制）

● 千葉県若年性認知症専用相談窓口

若年性認知症コーディネーターに相談できます。若年性認知症コーディネーターは、若年性認知症に関わるさまざまな支援を行っています。

電話：043-226-2601（千葉大学医学部附属病院内 直通）
電話相談日：月・水・金
相談時間：9:00～15:00（祝日・年末年始を除く）



認知症ケアパス

認知症ケアパスとは、認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、認知症の進行や状態に合わせて受けられる医療・介護・福祉サービスを示したものです。早く気づいて受診することや、適切な対応をすることでその人らしい生活を維持できます。

財布やカギなど、ものを置いた場所がわからなくなる。いつもものを探している。



同じものを何度も買って来る。同じ食材がたくさんある。



身なりを気にしなくなった。趣味や好きなことに興味を示さなくなった。



ささいなことで怒りっぽくなった。



一つでもあてはまる場合は、認知機能の衰えのサインかもしれません。主治医や地域包括支援センターに相談しましょう。

一宮町

